

単元名：平面図形

垂線はどこからでもひけるのか？

(全 18 時間扱い中 第 10 時)

授業日時 令和 3 年 11 月 4 日 (木) 第 5 校時

授業学級 1 年 D 組

授業会場 1 年 D 組教室

授 業 者

指 導 者

(1) ねらい

これまでの作図を基に、直線上にない点を通る垂線の作図方法を見いだすことができる。

(2) 授業のポイント

- ・場面：直線上にない点 P を通る垂線の作図方法について考える。
- ・活動：これまでの作図を基に、直線上にない点を通る垂線を作図する。

過程	活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導 入	1. 直線上にない点を通る垂線をひくことができるか GeoGebra で提示しながら問う。	◇前時の学習を振り返り、垂線の作図方法を確認する。 ○「点 P が直線上にない時も、点 P を通る垂線をひくことができますか。」	5
	【学習問題】直線上にない点を通る垂線は作図できるのだろうか。		
	2. 問題を解決するための方針を立てる。	○「作図するにはどのようにすればよいですか。」 ◇前時を想起させながら、「これまでの作図の仕方が使えそう」という生徒の発言を基に、学習課題を据える。	5
	【学習課題】これまでの作図を基に、直線上にない点を通る垂線を作図しよう。		
展 開	3. これまでの作図を基に、直線上にない点を通る垂線を作図する。	○「これまでの作図を基に、直線上にない点を通る垂線を作図しましょう。」 ◇なぜその作図で垂線がひけたのか、他の方法はないかななどを問う。	10
	4. 作図の手順を全体で共有し、なぜその方法で垂線がひけるのかを確認する。	○「どのように作図しましたか。」 ◇作図方法を生徒に発表してもらい、なぜその方法で垂線がひけるのか問う。 ◇作図した図の中にひし形ができることに気付かせる。	20
	5. 垂線の作図方法をまとめる。	◇点 P が直線上にあってもなくても同じ作図方法になることを確認し、作図の手順についてまとめる。 【評価】直線上にない点を通る垂線の作図方法を見だし、作図できている。(ワークシート、観察)	5
終 末	6. 本時の学習を振り返る。	○「今日の授業を振り返りましょう。」 ◇これまでの作図方法の共通点について触れている振り返りを取り上げ、発表してもらう。	5